

2025/10/14 (火)

朝の礼拝

聖書 ゼカリヤ書 8 章 12 節 (新約聖書 1464 頁)

平和の種が蒔かれ
ぶどうの木は実を結び
地は実りをもたらし
天は露を降らせる。
私はこの民の残りの者に
これらすべてのものを受け継がせる。

平和の種

パレスチナの平和が少し動きだしたようです。しかしどこまでも続く焼け野原を前に、ガザの人々はどんな明日を描いているのでしょうか。今、読んでいたのは約二千五百年前、大国に占領され千km以上離れた囚われの地からパレスチナに帰還した民に、預言者ゼカリヤが彼らの明日を、幻（ヴィジョン）を伝えている箇所です。

半世紀はあまりに長く、囚われの地で亡くなった人、老人は戻る体力はなく、故郷を知らずに生まれ育った子どもや若者は帰らなかったと言われています。そして帰ったとしても見知らぬ人が住み着き、帰還した民の神殿再建を妨害していたのでした。彼らの復興は厳しい現実には阻まれていたのです。

ゼカリヤは「主はこう言われる。私はシオンに帰り、エルサレムのただ中に住む。」(3 節) と慰め、「日の昇る地から、日の沈む地から、私はわが民を救い出す」(7 節) と励ますのでした。そして「今、私はこの民の残りの者に対して、かつての日々のようにはしないと、残された人々の砕かれた魂を受けとめるのでした。

それは種が蒔かれ雨が降り、荒れ野は緑の草地となり、木の実が結び、いちじくとぶどうは豊かに実り、そして穀物の収穫があるように、神は平和の種を残された人々の心に蒔き、平安を甦らせると伝えます。今もガザの人々に平和の種が蒔かれ、安らぎと穏やかな日々が与えられますように祈りましょう。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、秋の豊かな実りの時を迎えました。どうかゼカリヤが平和の種の幻を伝え、帰還した民を慰め励ましたように、愚かにも互いに争う民の高ぶりや過ちを除き、互いに赦し合う平和な実りを与えてください。どうか世界各地の災害、争いにある人々を覚え、どうかわたしたちを平和の器として導いてください。また心身に苦しみを覚える家族、友人を覚えて祈ります。どうかその艱難を耐え、御心ならばひと時でも早く回復の時を与え、共に喜びと感謝を献げることができるよう導いてください。どうか今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン